

水稻・麦・大豆栽培情報 8月号－2

平成28年8月18日
J A 柳 川
南筑後普及指導センター

【水稻】

今年は梅雨明けが昨年より早く、晴れの日が続き、気温は平年より高く推移しています。そのため、水稻の生育は昨年よりやや急いでおり、茎数は十分確保されています。

1 病虫害防除

一部のほ場で葉いもちの発生が確認されています。トビイロウンカは、現在のところ少ないですが、気象条件等により急激に増殖しますので確実に防除を行ってください。

※基本防除は以下のとおりとなっています。

品種	使用薬剤及び使用量	防除時期
元気つくし	ブラシンバリダジョー カー粉剤DL 4kg/10a	8月24日～8月27日頃
ヒノヒカリ		8月27日～8月31日頃
ヒヨクモチ		9月5日～9月9日頃

※ 予想出穂期の目安は、「元気つくし」が6月20日頃、「ヒノヒカリ」・「ヒヨクモチ」が6月24日頃移植の場合です。

※ 出穂期とは、ほ場の40～50%程度が出穂した日のことです。

2 水管理

出穂期前後5日程度は、水稻の生育期間中で水を最も必要とする時期です。土壌が乾燥すると減収につながりますので、十分に水をためておいて下さい。出穂期以降は、根の機能維持のため、間断灌水を行います。

【大豆】

病害虫防除

8月上旬に白変葉が初見されています。ハスモンヨトウの防除適期は、フェロモントラップの誘殺ピークから10日目頃です。地域によって誘殺数に差があるため、ほ場で発生状況を確認して下さい。

下表を目安に防除を行い、ハスモンヨトウによる被害を抑制しましょう。

[1回目防除]

対象病害虫	防除適期	使用薬剤及び 希釈倍数	使用液量 (10a)
ハスモンヨトウ	8月27日 ～9月3日頃	ノーモルト乳剤又は アタブロン乳剤 2000倍	100L

※散布に際しては、ほ場により発生状況が異なるため、幼虫の小さい時期を確認し適期防除を行って下さい。

[2回目防除]

1回目の後、概ね2週間後がハスモンヨトウの防除適期となりますが、状況により前後します。また、ミナミアオカメムシの防除適期は開花期20～30日後の9月中旬頃です。ハスモンヨトウの防除と合わせて必ず実施しましょう。

対象病害虫	防除適期	使用薬剤及び 希釈倍数	使用液量 (10a)
ハスモンヨトウ	9月中旬頃	ペガサスフロアブル 2000～4000倍 又は プレバソソフロアブル5 4000倍	100L
カメムシ類		スミチオン乳剤 1000倍	100L
紫斑病		トップジンM水和剤 1000～1500倍	100L

※薬剤は葉の表裏にしっかりかかるように散布しましょう。

※なお、一部地域ではハダニ類が発生する場合がありますので、多発時はダニトロンフロアブル（1000倍、使用液量150L/10a）で補正防除して下さい。

農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベル(使用基準)を確認！
- 2 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底！
- 3 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄！
- 4 防除履歴の正確な記帳！